

民児協 あこう

広げよう 地域に根ざした 思いやり

第41号 平成24年 秋号



そかもた
かのろと
としこ
しきびせ
ほこも生
どともき
江にもて



百歳訪問 老人福祉部会

ご自身の短歌が書かれた色紙を胸に、息子さんの版画やご主人の木彫りの作品に囲まれてお元気な小畑芳江さん（赤穂地区）

平成24年9月18日 小畑家のアトリエにて

民生委員児童委員行動宣言

1. 安心して住み続けることができる地域社会づくりに貢献します。
2. 地域社会での孤立・孤独をなくす運動を提案し行動します。
3. 児童虐待や犯罪被害などから子どもを守る取り組みを進めます。
4. 多くの福祉課題を抱える生活困難家庭に粘り強く接し、地域社会とのつなぎ役を務めます。
5. 日頃の生活を活かし、災害時に要援護者の安否確認を行ないます。

全国民生委員児童委員連合会



御崎地区

敬老の日、赤穂東中学校体育館において御崎地区敬老会が開催されました。御崎小学校金管バンドクラブの演奏がオープニングを飾り、御崎保育所の子どもたちによる楽器あそび、御崎幼稚園の園児による歌と踊り、婦人学級の3B体操やコーラス等々のアトラクションを参加者の皆さんは楽しめました。



尾崎地区

南宮町敬老会は9月16日に開催され、18名の方が出席されました。

中村自治会長のあいさつで始まり、恵比寿大黒舞、舞踊、南京玉すだれ、カラオケ、マジック、そして昼食後のおしゃべり喫茶、福引大会で終わりました。

終始アットホームな雰囲気になれ、おしゃべりと笑顔が途切れませんでした。

赤穂地区

9月17日、敬老の日各地域で敬老会が行われました。

近所の顔なじみの方々が参加され「ひさしぶり!!」とか、「あの事やけどなー。」とか、話に花が咲き、ビンゴゲーム、カラオケなど食事をしながらなごやかで、楽しいひと時でした。



坂越地区

坂越地区の敬老会行事は、各自治会単位で開催し3年目になります。その中の一つ北野中では対象者の半数の22名が参加しました。前日の会場作りを始め、行事のマンネリを回避するため新しくサポートをお願いし、新舞踊や歌を披露しました。昼食後、恒例のビンゴゲーム、カラオケ、写真は炭坑節の踊りです。世話人を中心に参加者も揃って歌って踊りました。最後は全員で“ふるさと”を合唱し、参加者の長寿をお祝いし、来年の再会を約束して、楽しい一日が終わりました。



城西地区

城西地区では、9月2日～17日の期間、自治会ごとに6会場にて開催しました。台風の影響も心配されましたが、大勢の方が出席されひと安心。演目は各会場ごとに工夫を凝らし熱気ムンムン。なかには獅子舞や健康体操、フラダンスなど日頃の練習成果を披露する地区もあり、こころ温まる一日でした。



高雄地区

「敬老の日」の17日、台風の接近で心配された天気も無事回復し、高雄地区敬老会が行われました。今年は123名の参加者を得て、天台宗寶積院住職内海実正先生の「生きがい」と題された講演を聴かせていただきました。初めての試みで少し不安でしたが、ユーモアあふれたとても有意義なお話で皆さんも熱心に聴き入っておられました。アトラクションでは園児、児童による歌のプレゼント、又有志による踊りやカラオケと楽しい1日を過ごし、元気で来年の再会を約束し、会が終わりました。

塩屋地区

塩屋地区では、去る9月16日、塩屋小学校講堂において敬老会が開催され、約240人のお年寄りにご参加いただきました。

アトラクションは、小学校、中学校、幼稚園、保育所の子どもたちを始め、団体、個人有志。

参加者に楽しい一時を過ごしていただきました。



有年地区

有年地区では自治会、町内会別の敬老会が開催されましたが、その中の原ふれあい敬老会は9月17日に102歳の女性を始めとした多くの対象者に参加をいただき、児童、園児が中心になった手作りの紙芝居、合唱などのアトラクション、ビンゴゲームなどで楽しい一日を過ごしました。



楽しくなごやかに
各地区敬老会
民生委員・福祉推進委員も
協力しました



西部地区

西部地区は、各自治会単位で敬老会を行いました。福浦本町では、9月17日、法光寺本堂で31名の出席でした。子どもたちが出席者の1人ひとりに手作りのメダルをお掛けし、会場へ案内しました。会場では子どもたちが「肩たたき」の歌のリズムにあわせ、出席者の方々の肩をたたいてまわりました。

あんしんセンター見学記

高齢化、核家族化が深刻になっていく今、持病を抱え不安な生活を強いられる一人暮らしのお年寄りの方が数多くおられます。

離れて暮らす家族、近所の方々、民生委員等と皆で支え合って暮らしています。24時間、365日という訳にはとても無理な話です。

そこで市では、安心して

生活していただけるよう、通称『安心見守りコール』と呼ばれる緊急通報システムサービスを提供しています。2009年11月より大阪の「アズビルあんしんケアサポート(株)」に契約先を変更し、より精度を高めたサポート・サービスをを行っています。その支援シ

ステムは

①緊急対応↓救急車、民生委員等近隣協力員への協力要請

②相談対応↓健康、介護等

③お伺い電話↓ごきげん伺

いの電話サービス

これにより、緊急時の支援、介護予防の推進、自立した生活を支えるサービスの推進と、幅広く24時間専門スタッフと看護師がセンターに待機、対応見守りがなされています。

赤穂市では現在380名

の方に設置され、月3〜5件程度の緊急連絡があるそうです。

私たち民生委員は、この安心見守りコールをお年寄りの方に薦めたり、申請手続業務等を行っています。実際にセンターに赴き話を聞いたり、電話対応している現場を見たことが無かったので、このたびの研修見学会は意義深く、大変勉強になりました。

市や民生委員の取り組み姿勢、センターからの心強い言葉など、今後、この安

心見守りコールの件だけではなく、一人暮らしのお年寄りが安心して暮らしている社会が出来上がるものと確信して大阪を立ちました。(9月27日 見学)



先人の知恵の詰まったことわざ・名言は、現代にも通用する経験の集約です。

今回は、親としてのあり方、子育て上の知恵や教訓となるものをいくつか紹介します。

『子どものしつけは言葉によるべからず。目よらしむべし』 福沢諭吉

『親の背中を見て育つ』

子育ては、言葉でしつけるだけでなく、親自身が見本を示すことが大切であるということです。子どもは、一番身近な大人である親を見て育ち、親の日常の言動や生き方をまねて、様々なことを学んで成長していきます。親として、また、大人として、恥じない生き方を自覚していくことが大切だといえるでしょう。

『三つ子の魂百まで』

『すすめ百まで踊り忘れず』

乳幼児の性質や修得した技能は、大人になっても持ち続けるというたとえです。この初期段階の重要性は脳の発達からも裏付けられており、誕生期から四〜五年間のしつけや健全な家庭環境づくりが重要であるということです。

この時期に、肌と肌とを触れ合いながら、失敗と成功を何度か繰り返す、体を通して学べるよう親が心がけていくことが大切だといえるでしょう。

そして、親だけでなく、社会全体で子育てを見守る世の中であってほしいと願います。

編集後記

今号は、各地区の敬老会の様子など老人福祉に関する記事が主な内容になりましたが、団塊の世代が65歳となり始め、日本の少子高齢化がますます進んでいくこととなります。

民生委員児童委員は、地域社会のつなぎ役としてとめてまいります。

広報部会

